

(有)田澤合金

鑄造に特化して事業を行っていますが、一つ分野に特化せず、医療機器の部品、石油精製の際に使用する部品、食品製造に関わる部品など、オールマイティーな製造を行っています。また、砂型鑄造と呼ばれる方法で行っており、木型を使い、多品種少量生産を得意としています。安価で製品を製造することができるため、試作品などの受注などに向いている町工場です。



<鑄造技術が強み>

鑄造加工とは、高温で熱して液体状にした鉄、アルミ合金、銅などの材料を型に流し込んだ後冷し、目的の形状に固める加工法です。田澤合金は、アルミの鑄造に特化している企業です。なかでもアルミの塊を液体状にする際の技術に優れています。この技術には経験と技術力を兼ね備えた、熟練された技術が必要で、沸かし過ぎず絶妙な温度を保つことを必要とされています。田澤合金では、約730度まで上昇させることで、不純物を取り除いています。

<田澤合金の製造方法>

毎日、午前と午後の二回にわけてアルミの塊を溶かしており、一つの塊を溶かすのに約10分かかります。この溶かした「湯」を木型で形を整えた砂に流し込み、一日に約70~80キロの製品を製造します。こうした一連の工程を従業員5名が手作りで行っています。

<木型のメリット>

田澤合金では、木型を長期にわたり保存していることから、いつでも何度でも同じ製品を製造できます。古くからのお客さんが、田澤合金に注文を続ける理由はここにあります。